

■現地研修 3 日目： 7 月 11 日（火）

朝方の強い雨音で目を覚ました生徒も多かったことでしょう、研修 3 日目は生憎の雨模様でのスタートとなりました。しかし、昨日の猛暑から一転、ひんやりとさえ感じる空気に気力、体力ともにリセットするにはちょうどよかったことでしょう。本日も皆元気にカフェテリアでの朝食を摂りました。



午前中は英語クラス。昨日のプレイスメントテストの結果を受けて編成されたクラスにて、3 時間ほどの英会話レッスンが実施されました。日本人生徒以外にも各クラス数名ずつの他国生が参加しています。他国生のほとんどが個人での参加、出身国は、China, Taiwan, Brazil, Columbia, France, Bulgaria, Turkey と、少ないながらも多様なバックグラウンドを持つ彼らとの交流を通して、英語力の必要性はもちろん、コミュニケーション能力、積極性など多くの刺激と影響を受けることでしょう。すでに昨日の日記には、英会話力の大きな差（彼らの高さ）と、自分の意見をしっかり伝えている姿（日本人との大きな違い）に言及している生徒も数名おりました。



午後は、コミュニケーション・トレーニングの会社を立ち上げ、錚々たる企業やスポーツ球団を顧客に持つ女性社長でもある「ケリアン・パノス」女史による高校生へのコミュニケーション・トレーニング（導入編）が実施されました。時折ジョークを交えながら流暢に日本語を操り、生徒を引き付けるトークだけでも彼女の聡明さをうかがうに十分ですが、なんと現在話せる（通訳できる）言語は 8 か国とのことでした。



前半は、「自己紹介」を通して互いを知るために、相手の人となりを引き出す（「Open-Ended」）質問についてのセッション。その理論から始まり、実際に生徒たちに考えさせながら実践的に展開。質問を通して生まれるコミュニケーションによって相手を知りながら、自分自身をも伝えることを、特に海外において自分が何者であるか（名刺上の肩書ではなく）を伝えることの必要性とともに、生徒に分かりやすく説明していただきました。

後半は、「挨拶」における日本語と英語の違いについて。つまり、日本の文化と英語圏（特にアメリカ）における両者の違いについて、形式的な部分の比較から、違いが生まれる本質（文化的、言語的背景）にまで言及し、グループでの意見構築と発表をベースに進められました。難解なテーマではありますが、日本語と英語を小気味よく交え、彼女の日本での多くの失敗談や異文化ゆえに発生した問題など、生徒に一秒たりとも飽きさせないそのトークに予定していた2時間もあっという間に過ぎていきました。彼女のセッションの冒頭に、君たちを「高校生」としてではなく、「成長中の大人」として扱う、とおっしゃっていたのも印象的でした。



上記セッションの終了後、夕食までまとまった時間がとれたため、30分ほどミーティングを実施いたしました。目的は、研修で各自が重きを置いていることや参加決意の理由（思い）を口にし、共有することで、改めて何をすべきかを明確にすることです。いくつかの意見が出され、もちろんいずれも熱い思いを感じるコメントばかりでした。自分の中だけに留めず、公言することで、そこそこで満足していないかを自問し、高いレベルに目標を置いて、お互いが強烈に影響し合っていく研修となることを期待します。



夕食後の「イブニング・アクティビティー」では、スポーツが行われました。バスケットボールとGym（タフツ大学の体育館）に分かれて、1時間半ほど他国生を交えていい汗を流しました。また、本日多くの中部高校生が「ミュージカル」の観覧をすることができました。以前から希望を申し出ていたもので、ボストン研修でしかできない、まさに念願のアクティビティー。チケット購入方法、移動の道筋、安全管理、そして他生徒への理解など、しっかりと準備を整えることができたため、最終的に先生方からの承諾をいただき、実行に移すことができました。時間の関係で残念ながら途中までの観覧となりましたが、本場のエンターテインメントの雰囲気を感じ、出てきた生徒たちの表情は、まさに「興奮冷めやらぬ」ものでした。